



## かき 柿はどうして「かき」というの

### 「あかき」の「あ」がとれて「かき」というようになった

あき 秋になると、かき 柿の木に真ま赤かにうれた柿かきの実みがたくさんかきなっているのを見ますね。柿は、あき 秋の果物くだものとして、かわ 皮かわをむいたり、ほ 干ほし柿かきにしたりして、よく食べられています。

かき 柿は、日本にに古ふるくからある果樹かじゆの一種いっしゆです。もともと、あか 赤あかい実みがなるので、「あかき」とよばれていたのですが、その中なかの「あ」がとれて「かき」になったといわれています。

なら 奈良時代じだい(710年~794年)の歌集ねんに『万葉集まんようしゆ』というものがあります。この歌集は、いつできたのかははっきりしたことはわかりませんが、この中なかには、ぜん 全国各地ぜんこくかくちのいろいろな人ひとたちの歌うたがおさめられています。

この『万葉集』の中なかの代表的だいひようてき歌人かに、柿本人麻呂かきのものひとまるという人ひとがいます。この時代の姓せいに「柿」という字じが使つかわれているのですから、柿かきということばが、相当古そうとうふるくからあったことがわかります。

げんざい 現在げんざい、わたしたちが食べる柿かきは、実みが大きいものですが、なら 奈良時代じだいの柿かきは、実みがとても小さく、もっぱら干ほし柿かきとして食べられていました。干ほし柿かきは、そのころの子こどもたちの大好きだいすきな食べ物たものでした。

### かき なまえ 柿の名前のいろいろ

かき 柿の品種ひんしゆは、800種しゆいじゆう以上あり、日本各地にほんかくちで作つくられています。

かき 柿かきには、あま 味あじがするあま柿がきと、しぶくて食べにくいしぶ柿がきがあります。

あま柿がきには、「富有ふゆう」「次郎じろう」「御所ごしょ」「禅寺丸ぜんじまる」などがあり、しぶ柿がきには、「平核無ひらたねなし（ひらたねなし）」、「会津身不知あいづみしらず（あいづみしらず）」、「西条さいじゆう」「愛宕あたご」などがあります。

(監修・田代 脩)

